



## 「盆栽」

～世界が夢中！命ある芸術のガイディングをマスター～

2019年6月11日（火）、12日（水）実施 JGA 第一支部研修報告

6月11日と12日の二日間、春花園 BONSAI 美術館にて盆栽研修を実施しました。両日とも午前に入門編、午後に今回初めて実施する応用編と二部制で研修を行い、2日間で延べ合計49名（JGA正会員45名、非会員4名）の参加者がありました。神康文講師は世界的に有名な小林國雄師の元で8年間修行後、1年間春花園 BONSAI 美術館館長を務められ、現在は独立して日本文化を世界に発信するべくユーチューバーとして活躍されています。春花園で海外からのお客様やお弟子さんにご案内やご説明をするうちに、2か国語をマスターされた方です。



入門編の前半は庭園にある盆栽の説明で、盆栽の鑑賞ポイント（根、幹、枝）や外国人客からの質問トップ3などを伺いました。後半は美術館内に入り、「真・行・草」の異なる形式の床の間を備えた部屋や屋久杉など珍しい材を使用している部屋などで床飾りを見ました。それぞれの床の間にはメインとなる盆栽、盆栽を引き立てるための掛け軸や水石、添配、添えの鉢等が飾ってありますが、それらの関係が緻密に考慮されて置かれているのが説明によりわかりました。



午後の応用編前半では、神講師が松の鉢植えを盆栽に仕立てる実技を拝見しました。最初に木をよく観察して、幹が美しく動きが感じられる正面を決めます。指導を仰ぎながら教材の古葉取り、針金かけ、また枝を整える作業を体験しました（写真）。参加者全員が行い「松の匂いが手についた」「良い匂い！」などと楽しく実践しました。ボサボサの松が見事に盆栽に生まれ変わりました。

後半は館内にて盆栽を飾る部屋全体のさらに深い説明を聴きました。盆栽と鉢・卓（しょく）や地板のバランス、盆栽の動きを引き立てる位置、盆栽を中心にした飾り（掛け軸・水石・置物・添え）全体の読み解き方など伺いました。風景やストーリーなど、正解はなく、自分で感じたことをガイディングでは説明すれば良い、とのことでした。ただし、季節感や生命の尊厳など、日本ならではの観点は大切です。この後、参加者が説明の実践をしました。

12日には小林師が来られ、盆栽のことから師の人生観、盆栽の将来さらには日本文化観まで語られました。通訳案内士がお客様に接するときが一番大切なことは何かとの質問に「ホスピタリティーでしょうね。お互い人間同士ですから、気心は通じ合えます。」と話されました。

印象深かったのは応用編の盆栽鑑賞について、盆栽の樹形、枝ぶりや見る角度等から掛け軸や置物（添配）、添え等、全体の鑑賞をすることが必要で、美術館が床の間の床柱・畳・材など全てが盆栽を引き立てるべく設えられていること、自分自身で感じる事が大切でさらに説明が日本文化にまで及んだことでした。



今回の研修で「入門編」と「応用編」に分けましたが、参加者のほとんどが両方に参加し、一日を通しての研修で充実した内容になりました。特に古葉を取り針金を使い枝を曲げ形を整える実践に感激した、との意見が聞かれました。